

将来の太公望のため

利根川の支流で最大の流域面積を誇る渡良瀬川と桐生川の本支流を管轄する両毛漁協。

4年前に県内歴代最年少の38歳で組合長に就任、2期目を迎えた。多くの人に釣りを楽しんでもらうための課題に勢力的に取り組む。

「毎日の生活すべては釣りのためにある、という感じ。仲間からもあきれられてます」と豪快に笑う。

幼時に自宅裏の川に釣り糸を垂れて以来、小、中、高と釣りに熱中。「熱くなると、ことんやらないと気が済まないタイプ」で、スノーボードでも群馬の草分け的存在。中高6年間は跳馬が得意だったという体操競技で汗を流した。「この時の経験が釣りに必要な体力や第六感を含めたさまざまな感性に生かされている」と振り返る。

両毛漁協組合長

中島 淳志さん(42)

る。

漁協の組合員になったのは大学時代。好きだからこそ、釣りを取り巻く諸問題を放置できず、卒業後数年で総代、理事兼総務部長と責任あるポストで経験を重ねた。体操をしている時に出会った奈緒美夫人(38)は現在、県

漁場管理委員で、釣りは好きは夫譲り。河川や養魚場が抱える課題も共有する。

アユ釣りが今月解禁された。どこに何を放流するか計画立案、天敵となるカワウの駆除、魚が遡上できる河川整備や環境保全、幅広い人材育成と、課

題は山積だ。「川は危険を知れば安全がわかる。怖いという意識を変え、昔のように川で遊ぶ子どもが増えることを期待したい」と将来の太公望に向け、力を込める。【井田洋行】

福文学 中島 淳志さん(42)は現在、県漁協の組合長に就任、2期目を迎えた。多くの人に釣りを楽しんでもらうための課題に勢力的に取り組む。



上州人